状　況　写　真

区分 任意

串間 営林署

（様式６）

試　験　地　設　定

区分 任意

串間 営林署

（様式２）

実　施　計　画

1. 試験地設定

昭和61年8月(11日～12日)に、試験地区域の実測および、生長量調査、植生調査を実行

(1) 場所　鉄道石国有林　54ら林小班

(2) 面積　1.42 HA

1 代区	2本仕立	0.37 HA
2 〃	3 〃	0.60
3 〃	4 〃	0.45

(3) 芽かき

(4) 試験地標示板の設置

2. 作業方法

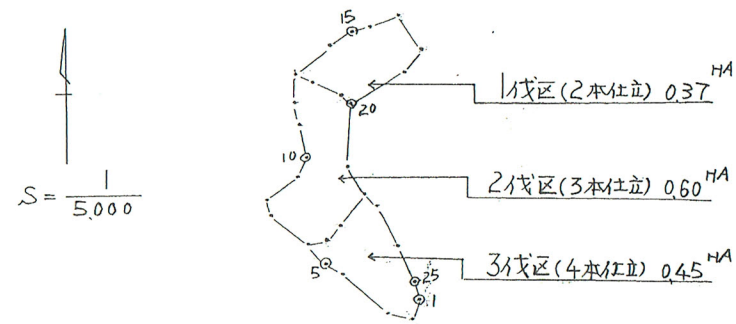
(1) 生長量調査（61～65年度）

(2) 植生　調査（61～65　〃　）

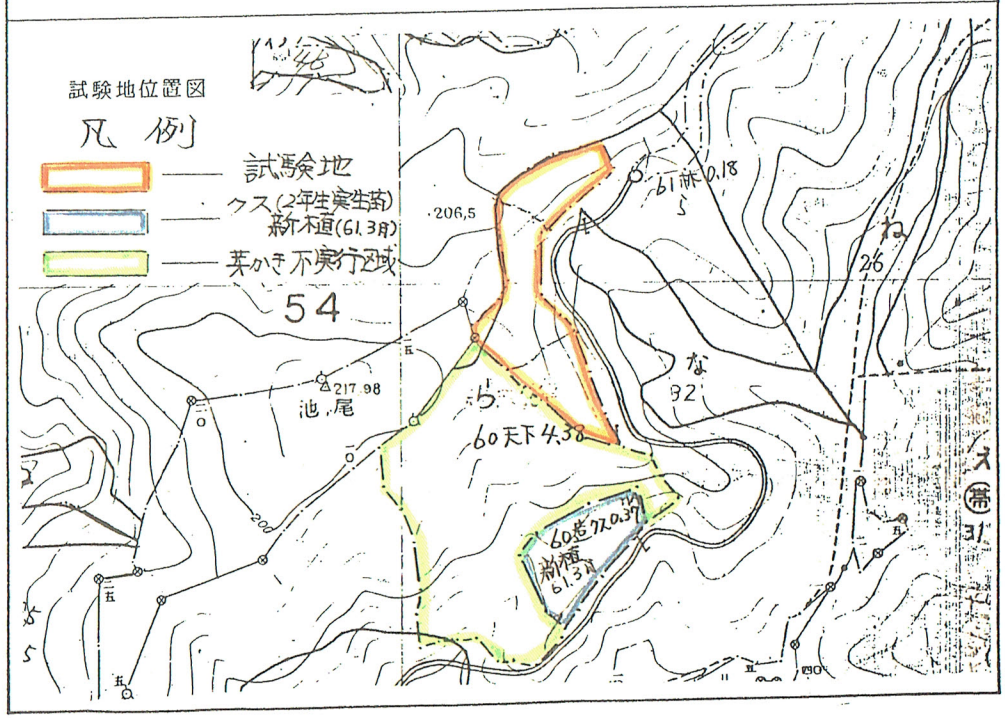
(3) 保育（芽かき）（61～65　〃　）→ 62年度まで完了見込み

なお芽かきの過程において、63～65年度内において有用樹種と他の植生との繁茂状態において、他の保育（下刈つる切）を取り入れるかは、現地を見ながら検討する。

試験設定図



試験地位置図



記載要領　1. 実施計画は設定方法及び作業方法等具体的に記入する。

試験経過記録

区分 任意　　中間・営林署

（様式4）〜1

課題	広葉樹優良林分を造成するための施業法

昭和6年4月に設定され、61年8月に試験地区域の実測及び優良広葉樹（クス、タブ、カシ類）の各伐区毎の全林木調査（根株経、樹高）を実施し取りまとめを行ない試験地の設定を行なった。
ノギス使用

当試験地は、高温多雨の海岸線に面した温暖地域で傾斜も緩やかで標高150〜160mで昭和60年度に立木販売処分ケ所で林令36年生の混交率100%の天然広葉樹林分で、クス、タブ、カシ類の優良広葉樹の占有率が75%と高く、優良広葉樹林分を造成するには、最適地で面積1.42haを1伐区〜3伐区に区分し61年度において保育として、芽かきによる本数調整を行なった。

その芽かき及び下刈りの施業功程調査については次の表の通りである。

内訳 / 伐区	面積 ha	保育 61年度 芽かき	保育 61年度 下刈り	保育 62年度 芽かき	保育 62年度 下刈り
		延人	延人	延人	延人
1伐区（2本/株立）	0.37	1.500	1.000	0.875	1.500
2 〃（3 〃）	0.60	1.500	1.125	0.500	2.000
3 〃（4 〃）	0.45	2.000	1.000	0.625	1.500
計	1.42	5.000	3.125	2.000	5.000

摘要：下刈りについては生長量調査を全木調査のため他の植生の繁茂が多く調査の精度と功程を上げるために実行した。62年度の芽かきについては61年度に引きつづき実行したがその後の発生も見られ2回目の本数調整（62年8月）を行なったもので63年度以降については、ぼうがの発生はないと思われる。

設定後2ケ年を経過し、62年12月末において生長も良好で、63年度についても継続して生長量調査（根株経級、樹高）について全木調査を行なう。又、同一小班内で芽かきを行なわなかった林分について比較調査を行なうため生長量調査の実施。
又、62年度署の自主調査として、この小班と同一の54ら小班内に試験地と隣接したクスの2年生実生苗新植（61.3月植付）800本0.37haがあり、この新植と芽かきしたクス林分（試験地）との生長の比較調査を実行し、引き続き63年度においても調査を行なう。→新植による成長とぼうが刀による成長比較を見るため（根株と樹高）。
署の自主調査であるが、クスタブカシ類の平均ぼうが発生本数によって芽かき等の本数調整を行なう場合の保育施業功程にどの程度の差異が見られるかを出すためにそれぞれ30本づつを調査し（根株の経級とぼうが本数）→これらについては、現在集計中である。

記載要領　1. 調査結果及び考察を記入する
　　2. 状況写真は別途提出する。

様式2

昭和62年度技術開発実施報告書

課題	広葉樹優良林分を造成するための施業法	継続・新規別	継続	担当課	造林課	開発箇所	事間	期間	昭和61年度 ～ 昭和65年度
		経常・特別別	経常						
		指示・自主別	任意						

全体計画	実施 昭和61年度までの実施経過を記入のこと	報告 昭和62年度実施結果を記入のこと	昭和63年度実施計画	評価および普及計画
1 試験地設定	① 昭和61年8月に試験地	① 昭和62年12月生長量調査(クスタブカシ類)の全木調査及び植生調査の実行。	① 生長量調査(クスタブカ類)の全木調査。	
2 調査事項	区域の実測及び生長量調査			
(1) 生長量調査(クスタブシ類)	(クス、タブ、カシ類)について全木調査		② クスの新植ケ所(0.3ヘクタール)の生長量調査(5m×5m)のプロットの抽出調査	
全木調査	実測 → 定員内(延)4,000人 生長量調査 → 〃 基職(〃)4,000人	① 生長量調査 → 定員内(延)5,000人 基職(〃)4,000人		
(2) 植生調査	② 保育(芽かき) → 施業工程調査	② 植生調査 → 定員内(〃)2,000人 基職(〃)5,000人		
(3) 保育等の施業工程調査(芽かき、下刈り)	昭和61年8月に基職により実行 1伐区(2本仕立) → 工程(延)1,500人	② 保育 ① 芽かき → 昭和61年8月第1回の芽かきを行なったが、その後の発生等もあり第2回の芽かきを実行した → 1伐区～3伐区(延)2,000人	③ 同一小班内(同じ立木処理ケ所)の芽かきを実行しなかった林分との生長の比較を行なうための生長量調査を行なう。(プロットを設ける)	
	2伐区(3本仕立) → 〃 1,500人			
	3伐区(4本仕立) → 〃 2,000人			
	③ 下刈 → 生長量調査が繁茂のため実行しにくいために。	② 下刈り → 62年8月 基職(延)5,000人		
	1～3伐区 4ヘクタール 基職(延)25人	③ 優良広葉樹(クスタブカ類)の切株の経緯調査とぼうが発生の本数調査(各樹種毎に30本づつを同一小班内の芽かきをしていない林分より抽出調査)		
		④ 5ヘクタール小班内に試験地設定と同時に、クスの2年生実生苗を800本(0.3ヘクタール)を新植(61.3月)した個所と、ぼうが芽かき林分(クス)の生育の比較調査の実行(根株と樹高調査)。新植ケ所は5m×5mのプロット4ケ所 → 定員内(延)2,000人		
		⑤ 試験地標示板の設置(90cm×180cm) 定員内手作り		
		③、④については署の自主調査	②③については署の自主調査	

状　況　写　真

区分	任意

串間 営林署

（様式６）

試験地標示板

標示板　タテ 90cm
ヨコ 180cm
（定員内の手作り）

状　況　写　真

区分 任意

串間 営林署

（様式６）

ぼうが発生状況

※ぼうがの発生本数(平均)によって保育(芽かき)の施業工程に差異が生ずるか
本数調査(くす、たぶ、かし類)はそれぞれ10本づつを切株の経級とぼうがの発生本数調査(63.1月調査)

くすのぼうが平均発生本数 ―― 11本
たぶの 〃 ―― 8本
かしの 〃 ―― 10本